

# 染 香

ぜんこう

福 泉 寺 寺 報  
令和7年2月  
第 130 号  
毎月 1 日発行

## 善意に似たるもの

朝、法事のために土手道を走っていました。福戸橋の信号で止まると、一人の初老男性が横断歩道近くで座り込んでいるのが視界に飛びこんできました。一月の朝の冷え込みようです。

「立てなくなってしまったのだろうか、それとも、まさか迷子に…」

信号が青になり車の列が進みます。私もどうすることもできず、そのまま法事先の家へ向かいましたが、すぐに引き返しました。

男性はまだ同じ場所にいました。近くに車を止めて降り、「大丈夫ですか」と声を掛けました。すると男性は、少し迷惑そうに「大丈夫だから」と言いました。「それでも、こんなに寒いのに…どちらへ行くのですか」としつつこく聞くと、橋の向こう側を指さします。そこには、大きなケアハウスがありました。

「送ります」私の無理矢理さに観念して、車に乗ってくれました。

車内では、先ほどの迷惑そうな印象とは変わって、若いころの仕事のこと、定期的に橋を渡って買い物に出ること、天涯孤独の身の上であることなど、話が盛り上がりました。



ホームページ



おて LINE



子ども行事



目的地付近に来て「ここでいいですよ。あなたのようないい坊さんに会えてよかった」と言われました。この言葉に私はすっかり調子をよくして、「ここで降ろしてほしい」という男性声を遮って、施設の玄関前までお送りしました。さらに私は施設に入ってスタッフの方に声を掛けました。男性は降り際に「これで、今度から出掛けにくくなるかもなあ…」と漏らしました。

この言葉に私はショックを受け、しばらく落ち込みました。



「この男性（利用者さん）は、一人での外出時に人に迷惑をかけた。だから今後は許可を出すのは控えよう」と、職員さんがそのように判断されても不思議はありません。

後で振り返ると、明らかに私の腹の中には、「いいことをしている」という念がありました。それ自体は何の障りさわもありません。ところがそれが暴れ出すと、相手の都合などよりも、自分の幸福を優先してしまうのです。

仏様の慈悲は、別名「大悲だいひ」と言います。私たち衆生の慈悲は「小慈しょうじ」と言います。

親鸞聖人は、ご自身を「小慈小悲もなき身にて…」とご自身を嘆かれました。

善意、…非常に難しいです。

（住職）

## イマサラ仏教！



【さあ、学びの時間です！】

仏教と聞けば、「葬式」「法事」のイメージが強いですね。実際そうなのだから仕方ありません。ところで、日本に仏教が本格的に伝来したのは、聖徳太子の頃です。一五〇〇年前！太子は『十七条の憲法』の制定に尽力しました。この憲法には、仏教思想がフンダンに盛り込まれています。例えば第十条。「どっちが正しいかなんて争うな、どっちにも言い分があつて、どちらも凡夫なのだから」とあります。太子には「仏教は人々が安心して暮らしていくために役に立つ」という確信があったのでしょう。

仏教は死者を慰めるレクイエムではありません。私たち生者のために説かれた教えです。

### ちょっと あたまの こりほぐし

じろう君は100円玉を3枚持っていき、

200円のお菓子を買いました。

おつりはいくらでしょうか？

★いじわるな問題です



## 春の永代経・彼岸法要

日時：三月二十日（木）十四時～十六時

講師：川田信五 師

（東かがわ市 大信寺住職）

・みやすいお話で大好評です

住職ゆかりの「五平餅」を振るまいます。

お気軽にご参拝ください。



## 仏教を学ぶ会スタート

仏教の基礎中の基礎を学ぶ会「法味会（ほうみかい）」を始めます。

「今さらこんなコト聞けない」と臆することはありません。安心してください。

一番大事なところを、一番シンプルにお伝えできるように頑張ります！

・毎月第2日曜午後1時半～3時半

・はじめに『正信偈』をします

・会費無料

・お茶を飲みながら気楽に行きます。

・少人数で進めます。

おてらより

によじとうち  
如 自 当 知

戦後まもなく、行列ばやりの時期がありました。何から何まで物資不足の時代でありました。そのころ、ある家庭の主婦が表通りに出てみると、長い行列ができていることに気がつきました。砂糖の配給か、塩の配給か、何はともあれ、急いで行列の最後尾につづきました。だんだん行列は進んで、やっと自分の順番になったとき、思わず「あつ」と驚きました。それは某家の葬式の焼香の行列であったということです。嘘のような、ほんとうの話であったと聞きました。

あれから、もう四十年もたちました。世の中はすっかり変わりました。にもかかわらず現代人は、あの時と同じような愚を繰り返してはいないでしょうか。名誉、地位、財産などの目先の欲望を追及して、肝心な自分の足元を見ようとはしません。禅宗には「脚下照顧」という言葉があり、『仏説無量寿経』には「汝自当知（なんぢみずかわまさに知るべし）」と説かれています。

考えてみれば、今、私たちの営みのすべてがやがて捨て去るものための営みであり、少しも役に立たないもののために、貴重ないのちを浪費しているのではないのでしょうか。「いのちを大切に」という標語は、何を意味しているのでしょうか。沈思黙考すべきであります。

私は最近、ある寺の掲示板で読んだ次の言葉に、しみじみ共感せざるを得ませんでした。

死ぬことが情けないのではない、  
空しく終わる人生がやりきれないのだ。

『露の臺——ころの巻頭言集——』村上速水 平成四年

・脚下照顧（きやつかしようこ）

禅宗のお寺の入口などに掲げてある言葉です。「自分の足もとを照らして顧みる」ということで、他人に対して理屈や文句を言う前に、しっかりと自分自身を振り返ってみなさいという意味。

・如自当知（によじとうち）

阿弥陀如来には、お師匠さんの「世自在王仏」という仏さまがいらっしゃいますが、そのお師匠さんの言葉です。「自分が本当はどんな願いを持っているのか、どのくらい深く、どのくらい確かに、どのくらい明らかにしているのか、もう一度確認してみなさい」という意味。（住職超訳）



「汝自当知」  
大谷大学 HP

みなさんのリレー用話  
青色青光  
しょうしきしょうこ

「宿縁」との出会い

昨年は素敵な言葉と出会いました。それが「宿縁」です。

私たち夫婦は、義理の母の死去に際して福泉寺さんの末席に加えて頂きました。

それから、ご住職さんとの交流をさせていただくことになりました。

ある月命日の法話をいただいたとき、真宗の教えの中に「宿縁」という言葉があることを教えていただきました。

宿命や運命という言葉はよく出会っていましたが、「宿縁」という言葉は初めて聞きました。

私は非農家で育ち、コメ作りなどしたことがありません。60の定年を迎え、実質コメ農家を継ぐことになりました。亡き義母に一つ教えてもらいながら、コメを作ってきました。それが妻と一緒にになった「宿命」なのかなあと思ってきました。

しかし、「宿縁」という意味を教えていただいた後、農作業をするにも違った思いがわいてきました。

宿命や運命という言葉で物事をとらえると、

とても重い響きを感じられ、私のとらえでは「義務」のように上から押し付けられたように感じられ、百姓仕事一つをとっても息が詰まるような「やらされ感」がありました。

しかし、「宿縁」という言葉に出会い、カミさんとの出会いが「宿縁」となり、老後の楽しみとしての農作業をいただいた。

どうも「宿縁」という言葉には、ポジティブに物事をとらえる力があるように思えてなりません。

運命や宿命が「やらねばならん」という義務感「せねばならない」という義務感を感じられ、重たい響きを持つのに比べて、「宿縁」は、前向き感や自主的・主体的にかかわっていけるような響きを感じられ、いまでは、すっかりこの言葉を自分の生活の中に使っています。

コメ作りは宿命だ。  
コメ作りは宿縁だ。

前文はひもで結ばれ身動きできないように感じられますが、後文はご縁をいただき自分の意志で縁をつなげようとするのが感じられますが、そう思うのは私だけでしょうか。皆さんいかがでしょう。

